

# 令和2年度教育事業 「子ども地球探検隊」

- 1 趣 旨 花山青少年自然の家の周辺や迫川流域、栗駒山麓にある豊かな自然のもと、自然体験活動や施設見学等を通じて、自然の仕組みについて理解を深めるとともに、その保護や活用について考え、地域に根ざした環境教育の推進を図る。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 3 共 催 栗駒山麓ジオパーク推進協議会
- 4 後 援 宮城県教育委員会、栗原市教育委員会

## 5 事業の概要

(1) 令和2年9月19日(土)～20日(日)【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象 宮城・岩手県内の小学校4年生から6年生 24名程度

②参加状況 参加総数30名(応募者数110名)

6 場 所 国立花山青少年自然の家 栗駒山麓ジオパークビジターセンター  
伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター

7 講 師 富山大学大学院 原田 拓也 氏  
栗原市役所 栗駒山麓ジオパーク 田中 誠也 氏  
伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター 藤本 泰文 氏

## 8 企画・運営のポイント

水と生き物、水と生活、水のはたらき、水の力を体感する等を学びのテーマにし、「水」を通した学びとして企画した。

伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターでは、展示コーナーでの解説や水辺での体験活動を通して、水と生き物とのかかわりについて学ぶ。迫川流域の通称「もぐり橋」付近では、河川の様子を観察するとともに河原での砂の採取を行う。栗駒山麓ジオパークビジターセンターでは、ジオラマや床一面の航空写真を見て、伊豆沼・内沼や迫川流域全体の様子を知るとともに、通称「もぐり橋」の名前の由来を知る。また、実験装置を使い、水の流れによる地形の変化について学習する。伊豆沼の砂、迫川の砂、さらには海の砂を顕微鏡で観察し、色・形、透明感等の特徴やそれぞれの類似点・相違点を考える。沢活動では、楽しみながら水の力を体感する。

「水」を通して様々な面から学習することにより、多角的なものの見方を意識させたいと考えた。また、「水」を通した学習をすることにより、様々な事象のつながりを実感してほしいと考えた。

## 9 日 程

	活 動 内 容
9/19 (土)	<ul style="list-style-type: none"><li>伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターで見学・体験活動をし、水と生き物とのかかわりについて学ぶ。</li><li>栗駒山麓ジオパークビジターセンターでは、説明を聞いたり実験装置を使った体験をしたりして大地のつくりについて学ぶ。</li><li>それぞれの場所で採取した砂を使ってプレパラートを作成する。顕微鏡で観察し特徴や共通点・相違点等を考える。</li></ul>
9/20 (日)	<ul style="list-style-type: none"><li>沢活動を通し、自然に親しみながら「水の力」を体感する。</li><li>浸食、運搬、堆積の様子を見たり、説明を聞いたりして流れる水のはたらきについて学ぶ。</li><li>2日間の学習を振り返り、感想や今後さらに知りたいことについてまとめる。</li></ul>

## 10 活動の内容について

【9月19日（土）1日目】「伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター、栗駒山麓ジオパークビジターセンター他」



【9月20日（日）2日目】「沢下流部、ふりかえりの活動」



## 11 成果と課題

### (1) 参加者アンケート結果

満足：79% やや満足：19% やや不満：2% 不満：0%

参加者30名に対して行ったアンケートの集計結果は、概ね満足群であった。全体的に好評であったといえる。

### (2) 参加者の声

- ・意外なものが外来種だったり、見たことのない生物を観察したりふれたりして楽しむことができました。
- ・水の力はとっても強くて、（欄干がないのは）「もぐり橋」がこわされないようにしているのだとわかりました。
- ・私の家の近くの川は、「もぐり橋」付近と違い）深くて流れが遅いのが不思議だと思いました。
- ・砂の正体をもっとくわしく知りたいと思いました。よりくわしくなるためにこのような活動に参加したい。
- ・砂を学ぶのが楽しかった。色や形が違ってすごかった。これからも砂や生き物をいろいろな場所で見たい。
- ・沢に行って水の力を体験しました。化石を見たり、飛び込みをしたりして楽しかったです。
- ・川にあった穴は、石でけずられたものということが分かった。川のつくりには特徴があることが分かった。
- ・砥沢は、「もぐり橋」で見た時の川と違って流れが速かった。大きな岩を流すなんて不思議だと思いました。
- ・水はいろいろな役割があったり、大変なことを及ぼしたりするんだなとあらためて思いました。
- ・2日間の体験や学んだことを生活や防災に役立てたいです。

### (3) 成果

- ・「水」を通し、1つのものを多角的にみることの面白さやそれぞれの場所で学んだことがつながっていることを実感できる活動にすることができた。また、自分が住んでいる地域の川の様子と比較したり、今回の活動から新たな課題を見つけたりしている子もいた。
- ・富山大学大学院の原田氏、栗駒山麓ジオパーク専門員の田中氏に2日間帯同していただいた。各場面で専門的な内容を分かりやすく説明をしていただいたことにより、学習の深まりが見られた。
- ・各班に学生ボランティアを担当として割り当て、参加者への対応を細やかにすることができた。

### (4) 課題

- ・テーマに沿った活動内容、解説内容、適切な活動時間にするため、講師やガイドと事前に確認すべき内容が多くあった。テーマの確認、分担等次年度は年度当初に確認した上で事業を計画していく必要がある。

担当：企画指導専門職 中館 幸夫